

第189号

(昭和54年 4 月)

目 次

学 長 告 辞 1

関 係 法 令 2

学 内 規 則 2

 富山大学学則の一部改正 2

 富山大学理学部規則の一部改正 3

 富山大学教育学部附属学校規則の一部改正 5

諸 会 議 6

人 事 異 動 6

学 内 諸 報 13

 名誉教授の称号授与 13

 海外渡航者 15

職 員 消 息 15

主 要 日 誌 17

昭和54年度入学式学長告辞

時はいま桜花爛漫、百花繚乱の季節であり、眼を転じて立山連峰を見ると、白雪皚々として、いまなお厳冬の様相を呈しております。

一方では春風駉蕩とした暖かさ、他方では酷しい寒さが続いております。即ち暖と寒、陽と陰、喜びと悲しみ、生と死の全く相反するものがそれぞれ相関しながら展開していく宇宙の厳然たる生命を身近に見ることができるのです。

現在の諸君も同様です。苦ししかった受験生活から解放され主体性をもった大学生活に転換する記念すべき日です。徒らに青春を謳歌するのみでなく己の人生をみつめ、自分自身の存在をつきつめて考えることも重要な課題であり、悔いなき人生計画を練るべきときであります。

吾もし若かりせば
 為すことも多かりしに
 逝く歳人を待たず
 今に到りて
 唯悔恨のみぞのこる

噫悲しい哉

と嘆くことのないよう、諸君の未来は限りなく広大であり、豊かであると信じます。たぎるような情熱と創造的エネルギーをもち自らの未来を展望し、今後の目標を冷静かつ真剣に考えていただきたい。これを大学入学に際しての初心というべきでしょう。“初心忘るべからず”の固い決意こそ大切です。ややもすると大学入学の興奮がさめ、いままでの緊張感を失い、最も大切な入学の目的、目標までも失って虚無感のとりことなり、脱落していく、いわゆる5月病にならないよう心をひきしめていただきたい。

いうまでもなく大学はあくまでも研究と教育の場であり、文化の伝達、伝承と新しく造り上げる創造の機能を発揮する学問の場であるから、それに伴う学習を否定することはできません。学習と研究は大学における諸君の権利であり、この権利こそ存分に発揮してほしいものです。

特に大学院研究科の諸君には大学における科学研究の重要性は、自由な発想による先駆的、独創的研究を進めて人類の永生と幸福をもたらすことが強く要請されております。

最近の科学は著しく専門分化し研究の最先端はますます精密、緻密化する一面、従来の知識体系では接近できない分野が生れております。一方ではミクロの世界から、他方では科学衛星までその進歩発展は驚くほどです。その上社会的要請の増大という研究の外在的な状況の変化が生れていきます。即ち、地球上の全人類が総力を挙げて取り組まねばならない多くの課題が山積していることです。

エネルギー問題、環境の保全、海洋問題、食糧、人口問題、災害、難病の研究など人類の生存にとって速かに解明すべき緊急の問題であり、学際的、国際的科学的究明が必要です。

また人間が自然界の一生物であることを忘れた人と自然との二元主義が現代の生態学的危機を招いたといわれています。相互依存は宇宙自然の摂理であり、ルールであります。

真理の探求、科学の研究には終着駅はありません。学問の研究は決して人との対決でなく己との対決であり、無限の力を信じ、これを発揮する努力と根性が必要であります。

大学はまた人間形成の場であり青年後期の人間形成の仕上げのときであります。大学における人間形成は先づ学問研究をとおしてのものですが、課外活動による面もまことに大であります。スポーツを愛し、頑健な体を作り上げることが肝要であり、個性を伸ばすための文化活動も意義あることです。

大学の自由は学問の進歩、社会の発展のために極めて重大なものとの認識によるものであって、自由に対する責任

と自立性がなければならぬと存じます。

すべからず健康にして意欲的バイタリテイに富んだ人間を指向していただきたい。青白きインテリでは困難な国際情勢を乗り切ることは不可能でしょう。充実した気力、強靱な体力、客観的な判断力の養成こそ肝要と存じます。

諸君は大学入学にあたり覚悟を新たに誤ることなく、片寄ることなく、はたまた軽率に附和雷同することなく、富山大学学生としての誇りを持ち、責任ある行動をとっていただきたい。

諸君の人生は永く、将来の栄光は期して待つべきものがあると存じます。

希わくは、明るく大らかに甘えることなく、おびえることなく、厳としてそびえ立つ立山のごとく不動の信念をもって大学生生活を送られんことを期待して学長告辞といたします。

昭和54年4月10日

富山大学長 林 勝次

関係法令

(官報掲
載月日)

政 令

○文部省組織令の一部を改正する政令(85) 4・4

○日本育英会法施行令の一部を改正する政令(99) 4・4
○国家公務員宿舎法施行令の一部を改正する政令(121) 4・27

省 令

○国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(文部8) 3・31
○国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令(同10) 3・31
○文部省定員規則の一部を改正する省令(同13) 3・31
○文部省設置法施行規則の一部を改正する省令(同15) 4・4
○文部省定員規則の一部を改正する省令(同16) 4・4
○学校基本調査規則の一部を改正する省令(同17) 4・4
○国家公務員宿舎法施行規則の一部を改正する省令(大蔵25) 4・27

規 則

○俸給の調整額の一部を改正する規則(人事院9-6) 4・27
○俸給の特別調整額の一部を改正する規則(同9-17) 4・27

告 示

○大学等の研究機関における組換えDNA実験指針を定める件(文部42) 3・31
○文部省共済組合運営規則の一部を改正する件(同58) 4・18

学 内 規 則

富山大学学則の一部改正

富山大学学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

昭和54年4月20日

富山大学長 林 勝次

富山大学学則の一部を改正する学則

富山大学学則(昭和25年1月20日制定)の一部を次のように改正する。

第4条の経済学部の中「経営学科」の次に「¹経営法学科」を加える。

第66条第2項中「4,000円」を「4,500円」に、「18,000円」を「24,000円」に改める。

第67条第4項中「4,000円」を「4,500円」に、「6,000円」を「8,000円」に改める。

別表第1 人文学部の項中「人文地理学」を「²考古学
人文地理学」に、「英文学」を「³英文学
アメリカ文学」に改め、同表

理学部の項中「△地殻進化学」を「⁴△地殻進化学
△陸水学」に改め、同表工学部の項中「△応用数学」を「⁵△応用数学
△情報処理」

に改め、同表経済学部の項を次のように改める。

経済学部
 経済学科
 経済原論第1
 経済史
 経済政策
 金融論
 統計学
 経済地理学
 社会学
 経営学科
 経営学
 流通論
 財務会計

管理会計
 経営工学
 経営環境論
 国際経営論
 人事管理論
 経営実務論
 経営法学科
 基礎法
 財産法
 企業関係法
 会社法

別表第2中

「 経済学部 」	経済学科	120名	480名	を
	経営学科	120名	480名	
「 経済学部 」	経済学科	120名	480名	に、
	経営学科	120名	480名	
	経営法学科	60名	60名	
「 合計 」	計	1,125名	4,375名	を
「 合計 」	計	1,185名	4,435名	に改める。

附 則

- この学則は、昭和54年4月20日から施行し、昭和54年4月1日から適用する。
- 昭和54年度の専攻生、研究生及び聴講生の入学に係る検定料の額は、第66条第2項及び第67条第4項の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

富山大学理学部規則の一部改正

富山大学理学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和54年4月20日

富山大学長 林 勝次

富山大学理学部規則の一部を改正する規則

富山大学理学部規則（昭和52年5月16日制定）の一部を次のように改正する。

別表中数学科の表の関連選択科目の欄中

「 || 物 性 論 序 説 | 2 || 」の次に「 || 地 球 物 理 学 | 2 || 」を加え、
 「 || 計 | 45 || 」を「 || 計 | 47 || 」に改める。

別表中物理学科の表の関連選択科目の欄中

「 || 化 学 基 礎 実 験 | 1 || 」を「 || 化 学 実 験 | 1 || 」に、
 「 || 生 物 学 基 礎 実 験 | 1 || 」を「 || 生 物 学 実 験 | 1 || 」に、
 「 || 数 値 計 算 法 | 2 || 」を「 || 地 球 物 理 学 | 2 || 」に、
 「 || 一 般 地 質 学 | 2 || 」を「 || 地 質 鉱 物 学 | 2 || 」に、
 「 || 雪 氷 物 理 学 | 2 || 」を「 || 雪 氷 物 理 学 | 4 || 」に、
 「 || 地 球 科 学 基 礎 実 験 | 1 || 」を「 || 地 質 鉱 物 学 実 験 | 1 || 」に、
 「 || 計 | 49 || 」を「 || 計 | 51 || 」に改める。

別表中化学科の表の専攻科目の欄中

「 | 分 析 化 学 | 2 | || 」を「 | 分 析 化 学 | 4 | || 」に、
 「 | 分 析 化 学 特 論 | | 4 || 」を「 | 分 析 化 学 特 論 | | 2 || 」に、
 「 | 化 学 基 礎 実 験 | | 1 || 」を「 | 化 学 実 験 | | 1 || 」に、
 「 | | 計 | 48 | 35 || 」を「 | | 計 | 50 | 33 || 」に改め、

同関連選択科目の欄中

「 || 生 物 学 基 礎 実 験 | 1 || 」 を 「 || 生 物 学 実 験 | 1 || 」に、
 「 || 一 般 地 質 学 | 2 || 」 「 || 地 質 鉱 物 学 | 2 || 」
 「 || 地 球 化 学 | 2 || 」 を 「 || 地 球 物 理 学 通 論 | 2 || 」 に改め、
 「 || 地 球 科 学 基 礎 実 験 | 1 || 」 「 || 地 質 鉱 物 学 実 験 | 1 || 」

同卒業に必要な単位数の欄の「専攻必修48単位（卒業論文12単位含む）、専攻選択14単位、関連選択12単位、自由選択4単位、合計78単位」を「専攻必修50単位（卒業論文12単位含む）専攻選択14単位、関連選択10単位、自由選択4単位、合計78単位」に改める。

別表中生物学科の表の専攻科目の欄中

「 | 形 態 学 実 験 | 3 | || 」 「 | 動 物 形 態 学 実 験 | 2 | || 」 に、
 「 | 植 物 形 態 学 | 1 | || 」 を 「 | 植 物 形 態 学 | 1 | || 」 に、
 「 | 植 物 形 態 学 実 験 | 2 | || 」
 「 | 生 物 学 基 礎 実 験 | | 1 || 」を「 | 生 物 学 実 験 | | 1 || 」に、
 「 | 発 生 学 実 験 | 1 | || 」を「 | 発 生 学 実 験 | 2 | || 」に、
 「 | 生 態 学 | 2 | || 」を「 | 生 態 学 | 3 | || 」に、
 「 | 公 害 科 学 | | 1 || 」を「 | 公 害 科 学 | 1 | || 」に、
 「 | | 計 | 54 | 31 || 」を「 | | 計 | 58 | 30 || 」に改め、

同関連選択科目の欄中

「 || 化 学 基 礎 実 験 | 1 || 」 「 || 化 学 実 験 | 1 || 」 に、
 「 || 一 般 地 質 学 | 2 || 」 を 「 || 地 質 鉱 物 学 | 2 || 」 に、
 「 || 地 球 化 学 | 2 || 」 「 || 地 球 物 理 学 通 論 | 2 || 」
 「 || 地 球 科 学 基 礎 実 験 | 1 || 」 を 「 || 地 質 鉱 物 学 実 験 | 1 || 」 に改め

同自由選択科目の欄中

「 || | 6 | 」 を 「 || | 2 | 」 に改め、

同卒業に必要な単位数の欄の

「専攻必修54単位（卒業論文12単位含む）、専攻選択10単位、関連選択8単位、自由選択6単位、合計78単位」を「専攻必修58単位（卒業論文12単位含む）専攻選択8単位、関連選択10単位、自由選択2単位、合計78単位」に改める。

別表中地球科学科の表を次のように改める。

専 攻 科 目	単 位 数		関 連 選 択 科 目	単位数	自 由 選 択 科 目
	必 修	選 択			
地 殻 構 造 論	2		線 形 代 数 学	2	他学科及び他学部の専門教育科目のうちから選択するものとする。 ただし、専攻科目の選択科目のうちからも選択することができる。
地 球 物 理 学	2		数 値 解 析 学	4	
鉱 物 学	2		物 理 学 基 礎 実 験	1	
岩 石 学	2		原 子 物 理 学 序 説	2	
岩 石 成 因 論		2	物 性 論 序 説	2	
地 震 学		2	物 理 実 験 学	2	

物理探査法		1	化学実験	1	
地下資源		1	基礎物理化学	2	
地球物理学実験	2		基礎有機化学	2	
地球物理学通論		2	分析化学	2	
地殻進化学	2		無機化学	2	
地形学	2		生物学実験	1	
構造地質学	2		基礎形態学	2	
第四紀学		2	基礎生物学	2	
古生物学		2	細胞生物学	1	
堆積学		2	資源生物学	1	
測量学		2	環境生物学	1	
地殻進化学実験	2		公害科学	1	
地形地質調査	2				
地質鉱物学実験		1			
地質鉱物学		2			
陸水学	2				
水圏物質代謝	2				
陸水化学		2			
水理地質学		2			
海洋学		2			
水質学	2				
水質分析実験	2				
雪氷物理学	4				
雲物理学	2				
X線結晶学		2			
防雪工学		1			
流動学		2			
雪氷学実験	2				
論文講読	2				
卒業論文	12				
計	50	30	計	31	6

卒業に必要な単位数

専攻必修50単位（卒業論文12単位含む）、専攻選択12単位、関連選択10単位、自由選択6単位、合計78単位

附 則

この規則は、昭和54年4月20日から施行し、昭和53年10月1日から適用する。

富山大学教育学部附属学校規則の一部改正

富山大学教育学部附属学校規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和54年4月20日

富山大学長 林 勝 次

富山大学教育学部附属学校規則の一部を改正する規則

富山大学教育学部附属学校規則（昭和41年1月17日制定）の一部を次のように改正する。

第 8 条 中

養護学校	小 学 部		3	8名	8名	24名
	中 学 部		3	8名	8名	24名
	高 等 部		2	10名	10名	20名
幼 稚 園	普通学級	2 年 保 育	3	35 名	70名	105名
		3 年 保 育	1	20名	20名	20名

を

養護学校	小 学 部		3	8名	8名	24名
	中 学 部		3	8名	8名	24名
	高 等 部		3	10名	10名	30名
幼 稚 園	普通学級	3 歳 児	1	20名	20名	20名
		4 歳 児	2	35名	50名	70名
		5 歳 児	2	35名	—	70名

に改める。

附 則

この規則は、昭和54年 4 月20日から施行し、昭和54年 4 月 1 日から適用する。

諸 会 議

昭和54年度第 1 回評議会 (4 月20日)

(報告事項)

- (1) 昭和54年度富山大学経済学部入学者選抜試験合格者の補充について

(2) 転学科について
(審議事項)

- (1) 富山大学学則の一部改正について
- (2) 富山大学教育学部附属学校規則の一部改正について
- (3) 富山大学理学部規則の一部改正について
- (4) 富山大学名誉教授称号授与について
- (5) 学生の除籍について

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任 命 権 者
	54. 4. 1	秋 山 進 午		教授 (人文学部)	文 部 大 臣
	"	和 崎 洋 一		" (")	"
	"	赤 阪 賢		助教授 (")	"
	"	渡 邊 信		講師 (教育学部)	富山大学長

採用	54. 4. 1	佐藤文隆	助手(経済学部)	富山大学長
	"	後藤康夫	" (")	"
	"	正亀芳造	" (")	"
	"	澤野雅彦	" (")	"
	"	竹内章	" (理学部)	"
	"	岩本光悦	助教授(教養部)	文部大臣
	"	三原健一	講師(")	富山大学長
	"	佐藤良一	" (経営短期大学部)	富山大学経営短期大学部学長
	"	笹川勇	教頭(教育学部附属小学校)	文部大臣
	"	杉本豊一	教諭(" ")	富山大学長
	"	大沢保	" (" 附属中学校)	"
	"	三国信孝	" (" ")	"
	"	米田淳一	" (" ")	"
	"	三ツ井譲	" (" 附属養護学校)	"
	"	館森照明	" (" ")	"
	"	天坂豊	" (" ")	"
	"	西藤光美	" (" ")	"
	"	林正利	" (" ")	"
	"	立野弓月	" (" ")	"
	"	森輝子	" (" ")	"
	"	中島美恵	" (" 附属幼稚園)	"
	"	向川政彦	文部事務官(人文学部・理学部)	"
	"	新井浩	" (教育学部)	"
	"	上木祐一	" (")	"
	"	古川泰弘	" (経済学部)	"
	"	林茂美	" (工学部)	"
	"	福田豊	" (教養部)	"
	"	笹岡博史	" (")	"
	"	田中正博	" (経営短期大学部)	富山大学経営短期大学部学長
	"	波多宣子	文部技官(理学部)	富山大学長
	"	高橋春男	用務員(経済学部作業員)	"
"	見村敏子	臨時用務員(厚生課作業員)	"	
"	古本清美	事務補佐員(教育学部)	"	
"	山崎みのり	臨時用務員(" 作業員)	"	
"	増山照夫	技能補佐員(" 農夫)	"	
"	山本辰美	事務補佐員(工学部)	"	

	54. 4. 1	吉田 勝		教務補佐員 (教養部)	富山大学長
	"	村雲 俊美		事務補佐員 (")	"
	"	山口 典子		" (")	"
	"	山本 順子		" (附属図書館)	"
	"	浦 真理子		" (経営短期大学部)	富山大学 経営短期大学部学長
	54. 4. 9	大野 教山		" (教養部)	富山大学長
	"	山西 圭造		臨時用務員 (経済学部作業員)	"
	54. 4. 11	黒田 智子		" (工学部炊婦)	"
	54. 4. 16	熊野 裕子		助手 (経済学部)	"
	"	山西 潤一		事務補佐員 (工学部)	"
	"	藤木 彌三郎		" (附属図書館)	"
	"	竹森 義雄		" (")	"
臨時的任用	54. 4. 21	奥田 トミ子		養護教諭 (教育学部附属養護学校) (期間54. 4. 21 ~54. 6. 1)	富山大学長
昇任	54. 4. 1	石田 安弘	助教授(東京医科歯科大学教養部)	教授 (人文学部)	文部大臣
	"	夫馬 進	助手 (京都大学人文科学研究所)	講師 (")	富山大学長
	"	和田 晴吾	" (" 文学部)	" (")	"
	"	水谷 義彦	助教授(名古屋大学理学部)	教授 (理学部)	文部大臣
	"	山淵 龍夫	助手 (工学部)	講師 (工学部)	富山大学長
	"	穴田 博	" (")	" (")	"
	"	手塚 昌郷	助教授 (教養部)	教授 (教養部)	文部大臣
	"	木越 治	講師 (")	助教授 (")	"
	"	山本 孝一	" (")	" (")	"
	"	小林 久壽雄	" (")	" (")	"
	"	森 克徳	助手 (理学部)	" (")	"
	"	北川 功二	大学局大学課国立大学第一係長	経理部主計課長	"
	"	本田 俊一	北海道大学厚生課長	学生部次長	"
	"	鬼澤 三郎	管理局福利課年金係長	厚生課長	"
	"	田中 昇	附属図書館総務係長	人文学部・理学部事務長補佐	"
	"	永森 俊夫	庶務部庶務課学事調査係長	教育学部事務長補佐	"
	"	杉林 昭子	教養部学生係学生主任	学生課教務係長	富山大学長
	"	井城 小三郎	経理部主計課総務係共済組合主任	人文学部・理学部経理係長	"
	"	桶 喜一	文部事務官 (経理部主計課)	経理部主計課総務係共済組合主任	"
	"	江藤 憲和	文部事務官 (教育学部)	経営短期大学部総務係総務主任	富山大学 経営短期大学部学長
	54. 4. 16	渡邊 英二	助教授 (教育学部)	教授 (教育学部)	文部大臣
"	中谷 唯一	助教授 (")	教授 (")	"	
"	山下 三郎	講師 (")	助教授 (")	"	

	54. 4. 16	横山 泰行	講師(教育学部)	助教授(教育学部)	文部大臣
	"	大野 正道	助手(経済学部)	講師(経済学部)	富山大学長
	"	八木 寛	助教授(工学部)	教授(工学部)	文部大臣
	"	川田 勉	助手(")	助教授(")	"
	"	北村 潔和	"(名古屋大学 総合保健体育科学センター)	講師(教養部)	富山大学長
転任	54. 4. 1	中井 昇	助手(薬学部)	助手(富山医科薬科大学薬学部)	富山医科薬科 大 学 長
	"	清水 寛	富山工業高等専門学校 庶務課人事係長	庶務部庶務課学事調査係長	富山大学長
	"	高野 俊英	文部事務官(経営短期大学部)	経理部経理課	"
	"	濱野 松男	" (")	教育学部	"
	"	安守 数雄	経営短期大学部総務係長	附属図書館総務係長	"
	"	鹿島 光雄	文部事務官(体育局スポーツ課 登山研修所)	人文学部・理学部	"
	"	渡辺 国男	経済学部会計係長	経営短期大学部総務係長	富山大学経営 短期大学部学長
	"	三井 健一郎	文部技官(薬学部)	富山医科薬科大学薬学部	富山医科薬科 大 学 長
	"	岡木 照代	" (")	" "	"
	"	尾島 宏幸	" (" 自動車運転手)	富山医科薬科大学総務部庶務課自動車運転手	"
	"	林 清治	文部事務官(教育学部)	富山工業高等専門学校学生課学生係学生主任	富山工業高等 専門 学 校 長
"	紫田 淳	" (")	体育局スポーツ課登山研修所	文部大臣	
配置換	54. 4. 1	中村 義朗	教諭(教育学部附属中学校)	講師(教育学部)	富山大学長
	"	塩谷 俊作	教授(富山工業高等専門学校)	教授(教養部)	文部大臣
	"	藤本 喬雄	助教授(経済学部)	助教授(香川大学経済学部)	"
	"	柳田 友道	教授(薬学部)	教授(富山医科薬科大学薬学部)	"
	"	長谷 純一	" (")	" (" ")	"
	"	酒井 立夫	助教授(")	助教授(" ")	"
	"	小橋 恭一	" (")	" (" ")	"
	"	宮廻 甫允	助教授(経営短期大学部)	助教授(鹿児島大学法文学部)	"
	"	田中 重雄	北海道教育大学庶務部長	庶務部長	"
	"	名古 正志	旭川医科大学業務部施設課長	施設課長	"
	"	重吉 雅裕	経理部主計課長	静岡大学経理部主計課長	"
	"	瀬川 義廣	施設課長	富山医科薬科大学業務部施設課長	"
	"	川代 重富	学生部次長	広島大学学生部次長	"
	"	原澤 富一	厚生課長	群馬大学入学主幹	"
	"	野村 信生	薬学部事務長	教養部事務長	"
	"	土井 盛治	教養部事務長	附属図書館事務長	"
	"	大崎 秀雄	文部事務官(教養部)	庶務部庶務課	富山大学長
	"	田子 直幾	" (庶務部庶務課)	庶務部人事課	"
	"	松田 幹夫	文部事務官(教養部)	経理部主計課	"

配置換	54. 4. 1	長 沢 義 男	学生課教務係長	学生課入学試験係長	富山大学長
	"	水 口 妙 子	文部事務官(保健管理センター)	厚生課	"
	"	山 本 郁 子	文部技官(厚生課栄養士)	保健管理センター栄養士	"
	"	山 本 悦 子	文部事務官(教育学部)	人文学部・理学部	"
	"	佐久間 克 明	文部事務官(経済学部)	"	"
	"	前 馬 紫 津	文部事務官(工学部)	"	"
	"	中 村 恵 二	文部事務官(学生課)	教育学部	"
	"	太 田 久 則	文部技官(厚生課調理士)	" 調理士	"
	"	紫 田 利 治	文部技官(工学部)	文部事務官(経済学部)	"
	"	谷 口 和 則	文部事務官(庶務部人事課)	工学部	"
	"	本 吉 友 治	文部事務官(附属図書館)	教養部	"
	"	荒 屋 克 子	文部事務官(人文学部・理学部)	附属図書館	"
	"	吉 岡 泰 博	文部技官(工学部)	文部事務官(附属図書館)	"
	"	今 井 稔	人文学部・理学部経理係経理主任	人文学部・理学部用度係用度主任	"
	"	河 上 孝	文部事務官(経理部経理課)	経理部主計課	"
	"	石 黒 勝 夫	人文学部・理学部経理係長	経済学部会計係長	"
	"	竹 下 義 美	学生課教務係教務主任	学生課入学試験係入学試験主任	"
	併任	54. 4. 1	本 田 弘	教授(人文学部)	教授(文理学部)
"		山 村 敬	" (")	" (")	"
"		楠 瀬 勝	" (")	" (")	"
"		永 田 英 正	" (")	" (")	"
"		長 沼 忠兵衛	" (")	" (")	"
"		木 下 良	" (")	" (")	"
"		手 崎 政 男	" (")	" (")	"
"		山 口 博	" (")	" (")	"
"		梶 井 陟	" (")	" (")	"
"		三 宝 政 美	" (")	" (")	"
"		平 田 純	" (")	" (")	"
"		奥 田 平八郎	" (")	" (")	"
"		吉 田 清	" (")	" (")	"
"		提 山 淑 郎	" (")	" (")	"
"		藤 井 一 行	" (")	" (")	"
"		中 本 昌 年	助教授(")	助教授(")	"
"		鎌 田 元 一	" (")	" (")	"
"		岡 本 明	" (")	" (")	"
"	藤 本 幸 夫	" (")	" (")	"	

兼任	54. 4. 1	北村純一	助教授(人文学部)	助教授(文理学部)	文部大臣
	"	矢澤英一	" (")	" (")	"
	"	木下喬	講師(")	講師(")	富山大学長
	"	山崎幸雄	" (")	" (")	"
	"	佐藤進	" (")	" (")	"
	"	寺津典子	" (")	" (")	"
	"	中村良郎	教授(理学部)	教授(")	文部大臣
	"	北野孝一	" (")	" (")	"
	"	風巻紀彦	" (")	" (")	"
	"	田中專一郎	" (")	" (")	"
	"	斎藤好民	" (")	" (")	"
	"	松本賢一	" (")	" (")	"
	"	中川正之	" (")	" (")	"
	"	児島毅	" (")	" (")	"
	"	高木光司郎	" (")	" (")	"
	"	竹内豊三郎	" (")	" (")	"
	"	川井清保	" (")	" (")	"
	"	後藤克巳	" (")	" (")	"
	"	横山泰	" (")	" (")	"
	"	川瀬義之	" (")	" (")	"
	"	小黒千足	" (")	" (")	"
	"	久保和美	" (")	" (")	"
	"	小林貞作	" (")	" (")	"
	"	堀令司	" (")	" (")	"
	"	広岡公夫	" (")	" (")	"
	"	堀越叡	" (")	" (")	"
	"	渡邊義之	助教授(")	助教授(")	"
	"	鈴木正昭	" (")	" (")	"
	"	中田三郎	" (")	" (")	"
	"	近堂和郎	" (")	" (")	"
"	平山実	" (")	" (")	"	
"	岡部俊夫	" (")	" (")	"	
"	常川省三	" (")	" (")	"	
"	安田祐介	" (")	" (")	"	
"	金坂績	" (")	" (")	"	
"	尾島十郎	" (")	" (")	"	

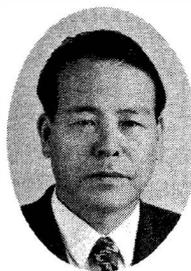
併任	54. 4. 1	鳴橋直弘	助教授(理学部)	助教授(文理学部)	文部大臣
	"	井上弘	"()	"()	"
	"	菅井道三	"()	"()	"
	"	川崎一郎	"()	"()	"
	"	日下部実	"()	"()	"
	"	松本勝	講師()	講師()	富山大学長
	"	田口茂	"()	"()	"
	"	道端齋	"()	"()	"
	"	東川和夫	助手()	助手()	"
	"	水野透	"()	"()	"
	"	菅谷孝	"()	"()	"
	"	林有一	"()	"()	"
	"	濱本伸治	"()	"()	"
	"	川田邦夫	"()	"()	"
	"	高安紀	"()	"()	"
	"	金森寛	"()	"()	"
	"	東軒克夫	"()	"()	"
	"	南部睦	"()	"()	"
	"	山口晴司	"()	"()	"
	"	笹山雄一	"()	"()	"
	"	野口宗憲	"()	"()	"
	"	増田恭次郎	"()	"()	"
	"	嶋作恭子	教諭(教育学部附属養護学校)	附属養護学校中学部主事(併任解除)	"
	"	佐藤日出信	"()	附属養護学校高等部主事(併任解除)	"
	"	経塚嘉一	"()	附属養護学校小学部主事	"
	"	山下清士	"()	附属養護学校中学部主事	"
	"	林静生	"()	附属養護学校高等部主事	"
	54. 4. 2	鶴木利雄	教授(教育学部)	教育学部附属中学校長(期間 54. 4. 2 ~ 55. 3. 31)	文部大臣
	"	大井信一	"(工学部)	評議員(併任解除)	"
	"	三上房男	"()	評議員(期間54. 4. 2 ~ 54. 5. 31)	"
"	大井信一	"()	工学部長(期間54. 4. 2 ~ 56. 4. 1)	"	
"	"	"()	評議員(期間 " ")	"	
"	瀧澤弘	"(教養部)	(期間54. 4. 2 ~ 54. 4. 24)	"	
54. 4. 25	河野昭一	"()	"(期間54. 4. 25 ~ 56. 4. 24)	"	
"	瀧澤弘	"()	"(期間54. 4. 25 ~ 56. 4. 24)	"	
公の名 称附加	54. 4. 1	笹川勇	教頭(教育学部附属小学校)	教育学部附属小学校副校長	文部大臣

退職	54. 4. 1	木村 實	技能補佐員(施設課汽かん士)	昭和54年3月31日限り退職	富山大学長
	"	松下 イト	臨時用務員(教育学部作業員)	"	"
	"	永川 智子	事務補佐員(薬学部)	"	"
	"	示森 加代子	" (工学部)	"	"
	"	三浦 民雄	" (教養部)	"	"
	"	永井 富美子	" (経営短期大学部)	"	富山大学経営短期大学部学長
	54. 4. 2	山口 政則	教授(教育学部)	昭和54年4月1日限り停年により退職	文部大臣
	"	小沢 慎一郎	" (")	"	"
	"	室町 繁雄	" (工学部)	"	"
	"	加藤 正	" (")	"	"
	"	柿岡 時正	" (教養部)	"	"
54. 4. 11	永井 正夫	臨時用務員(教育学部作業員)	昭和54年4月10日限り退職	富山大学長	
	福村 義範	" (教養部作業員)	"	"	
辞職	54. 4. 1	田畑 稔	助教授(教養部)	辞職を承認	文部大臣
	"	坂本 正次郎	庶務部長	"	"
	"	泉田 利享	附属図書館事務長	"	"
	"	鏑木 隆二	人文学部・理学部事務長補佐	"	"
	"	民谷 順治	教育学部事務長補佐	"	"
	"	大野 教山	文部事務官(教養部)	"	富山大学長
	"	御福 富子	文部事務官(教育学部)	"	"
	"	守田 保盛	文部技官(" 農夫)	"	"
	"	松下 てる	" (" 調理員)	"	"
	"	大西 圭造	文部事務官(経済学部作業員長)	"	"
54. 4. 30	片山 良一	技能補佐員(教育学部農夫)	"	"	

学内諸報

名誉教授の称号授与

昭和54年4月停年退職された次の方々に對し、昭和53年4月20日付けで富山大学名誉教授の称号が贈られた。

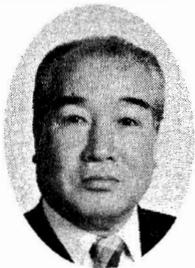


名誉教授
山口 政則
東京文理科大学生物学科卒業
理学士

昭和21年9月富山師範学校助教授、同24年6月兼富山大

学講師，同25年4月兼富山大学助教授，同26年3月富山大学助教授，同45年3月富山大学教授（教育学部）となり，32年有余の永きにわたり，終始熱心に学生の教育指導に専念された。この間2年2月本学の評議員として管理運営に寄与され，更に4年間教育学部附属小学校長並びに同幼稚園長として附属学園の発展に尽力された。

一方たゆまざる研究による学術論文として「ユリ科ワスレグサ属の核型分析」，理科教育については「理科教育における知覚的運動技能に関する実験的研究」など数多く発表し，貢献された。



名誉教授
小 沢 慎 一 郎
東京音楽学校甲種師範科卒業

昭和20年5月富山師範学校助教授，同24年6月兼富山大学助教授，同26年3月富山大学助教授，同47年4月富山大学教授（教育学部）となり，34年間の永きにわたり終始熱心に学生の教育指導に専念された。この間3年教育学部附属中学校長として附属学校の発展に尽力された。

一方たゆまざる研究による学術論文として「美しい日本語と音楽の相関についての研究序説」一歌う立場からの日本語の性質について、「美しい“ことば”音の作成に関する研究」その他多数発表し，音楽教育の場で具体的に活かすことのできる方法の確立をめざしており，音楽教育学会で高く評価される。



名誉教授
室 町 繁 雄
旅順工科大学冶金科卒業
工学博士

昭和26年11月富山大学教授に就任以来27年余りの永きにわたり熱心に教育研究に従事された。昭和44年以降は工学部長，評議員として本学の管理運営に寄与された。

一方金属加工学の教授として主として連続鋳造に関する研究で，アルミニウム関係，マグネシウム関係，塑性加工関係等の論文を60編以上発表し，その間軽金属論文賞，日本伸銅協会技術論文賞等を受賞しており，特に富山県が全国有数のアルミニウム工業県となった原動力としての功績は大きく，学界並びに地方産業に貢献するところが多い。



名誉教授
加 藤 正
東京工業大学機械工学科卒業
工学士

昭和21年4月高岡工業専門学校講師，同22年4月同校教授，同25年4月富山大学助教授，同31年6月同学教授となり，33年余りの永きにわたり熱心に教育研究に従事された。この間評議員，富山大学附属図書館工学部分館長として本学の管理運営に寄与された。

一方専門分野のねじの製作，測定に関する研究を主体に近年はレーザー光を用いた光学計測に関する研究にも意欲をもやし，これらの広い視野に基づく研究成果は学界並びに業界からも高く評価され貢献するところが多い。



名誉教授
柿 岡 時 正
東京帝国大学文学部哲学科卒業
文学士

昭和21年8月高岡工業専門学校講師嘱託，同年12月同校教授，同25年11月兼富山大学助教授，同26年3月富山大学助教授（文理学部），同42年4月教養部に配置換，同年9月教授となり，32年の永きにわたり教育・研究に専念された。

また，4期にわたり評議員を兼ね，本学の管理運営に寄与された。

なお哲学の教授として「カントとマルクス」の諸論文に見られるように，カントの批判哲学を経験的・批判的・人間の弁証法の立場と見なす，新しい独自の解釈を提唱し，カント研究に多大の貢献をされた。



名誉教授
片 山 龍 成
東北帝国大学理学部物理学科卒業
理学博士

昭和32年9月富山大学教授（文理学部），同42年4月教養部に配置換となり，21年余りの永きにわたり教育・研究に専念された。

一方物理学の教授として研究に従事し，金属合金の磁性

を理論的に研究され、特にFeAl合金、NiAl合金等のバンドに関する研究は有名であり、その他結晶成長等に関する

論文も発表し、貢献された。

海外渡航者

氏名	所属	官職	渡航の種類	渡航先国	目的	期間
竹内豊三郎	理学部	教授	海外研修旅行	アメリカ合衆国	日米化学会ハワイ合同会議	54. 4. 1 } 54. 4. 7
金坂 績	"	助教授	"	"	"	"
高安 紀	"	助手	"	"	"	"
金森 寛	"	"	"	"	"	"
山口 晴司	"	"	"	"	"	"
手塚 昌郷	教養部	教授	"	"	ACS/CSJ ハワイ合同会議	54. 4. 1 } 54. 4. 8
水谷 義彦	理学部	教授	"	"	日米化学会ハワイ合同年会	54. 4. 2 } 54. 4. 8
堀 令司	"	"	"	オランダ, イタリア	発生学に関する国際共同研究の再会 合出席及びナポリ動物研 究 所において研究討議	54. 4. 16 } 54. 5. 5
武井 勲	経済学部	助教授	"	アメリカ合衆国	リスク・マネジメント—保険管 理学会1979総会及びリスク・マ ネジメントに 関す 調査研究	54. 4. 23 } 54. 4. 8

職員消息

〈新任者〉

事務局

庶務部長 田中 重雄

主計課長 北川 功二

施設課長 名古 正志

学事調査係長 清水 寛

学生部

学生部次長 本田 俊一

厚生課長 鬼澤 三郎

人文学部

教 授 和崎 洋一

" 秋山 進午

" 石田 安弘

助 教 授 赤坂 賢

講 師 夫馬 進

" 和田 晴吾

人文学部・理学部

文部事務官 鹿島 光雄

" 向川 政彦

教育学部

講師 渡邊 信

教頭 笹川 勇

教諭 杉本 豊一

〃 大澤 保

〃 三国 信孝

〃 米田 淳一

〃 三ツ井 謙

〃 西藤 光美

〃 天坂 豊

〃 館森 照明

〃 林 正利

〃 立野 弓月

〃 森 輝子

〃 中島 美恵

文部事務官 新井 浩

〃 上木 裕一

技能補佐員 増山 照夫

事務補佐員 古本 清美

臨時用務員 山崎みのり

経済学部

助手 佐藤 文隆

〃 後藤 康夫

〃 澤野 雅彦

〃 正亀 芳造

〃 熊野 裕子

文部事務官 古川 泰弘

用務員 高橋 春男

理学部

教授 水谷 義彦

助手 竹内 章

文部技官 波多 宣子

工学部

文部事務官 林 茂美

事務補佐員 山本 辰美

〃 山西 潤一

臨時用務員 黒田 智子

教養部

教授 塩谷 俊作

助教授 岩本 光悦

講師 三原 健一

〃 北村 潔和

文部事務官 福田 豊

〃 笹岡 博史

事務補佐員 村雲 俊美

〃 山口 典子

教務補佐員 吉田 勝

経営短期大学部

講師 佐藤 良一

文部事務官 田中 正博

事務補佐員 浦 真理子

〈住所変更〉

事務局

経理課長 金澤 正一

教育学部

教授 鶴木 利雄

経済学部

助教授 出井 文男

理学部

教授 高木光司郎

工学部

助教授 五嶋 孝仁

講師 畠山 豊正

教養部

助教授 奥原 宇

附属図書館

事務補佐員 山本 順子

〃 中村ゆきえ

主 要 日 誌

本 部

- 4月2日 第2回学長候補適任者選定委員会
- 10日 昭和54年度入学式
昭和54年度国立学校施設実態調査説明会（於
東京青山会館）
昭和54年度学校基本調査説明会（於 名古屋大
学）
- 13日 第3回学長候補適任者選定委員会
第1回事務協議会
- 19日 第4回学長候補適任者選定委員会
第55回東海北陸地区国立学校等会計部課長会議
（於 名古屋大学）
- 20日 第1回評議会
- 23日 第5回学長候補適任者選定委員会
- 24日 第2回事務協議会
- 26日 高岡地域大学設置協議会
授業料等減免選考委員会
計算機センター運営委員会
- 27日 第17回構内交通対策委員会
- 28日 第6回学長候補適任者選定委員会
第6回学長選考管理委員会

文 理 学 部

- 4月12日 教授会
24日 X線間接撮影

人 文 学 部

- 4月11日 新入生オリエンテーション及び健康診断
教務委員会
- 16日 前学期授業開始
- 18日 教授会
新任教官を囲む教官懇談会
- 24日 X線間接撮影

教 育 学 部

- 4月5～6日 昭和54年度春季北陸地区教員養成学部事務

長協議会（於 福井大学）

- 6日 附属小学校第1学期始業式
- 7日 附属中学校第1学期始業式
附属幼稚園第1学期始業式
附属小学校入学式
- 9日 前学期授業開始
附属養護学校第1学期始業式
附属中学校入学式
- 10日 附属養護学校入学式
- 11日 新入生オリエンテーション
補導委員会
教務・補導合同委員会
教務委員会
教授会
人事教授会
附属幼稚園入園式
- 18日 教務委員会
紀要編集常任委員会
- 25日 紀要編集委員会
教育実習委員会
- 26日 予算委員会
- 27日 補導委員会

経 済 学 部

- 4月9日 第1回教務委員会
第1回教授会
- 11日 新入生オリエンテーション及び健康診断
- 12日 前学期授業開始
- 17日 日本海経済研究所運営委員会・学部図書運営委
員会合同会議
- 18日 第1回各種委員選考委員会
- 20日 X線間接撮影
- 23日 第2回教務委員会（持ち廻り）
- 25日 第1回人事教授会
第3回教務委員会
第2回教授会
- 28日 第1回学部施設整備委員会

理 学 部

- 4月11日 新入生オリエンテーション及び健康診断
- 12日 教授会
教官会議
- 16日 前学期授業開始

23日 学科主任会議
24日 X線間接撮影
25日 教授会

工 学 部

4月7日 教務委員会
11日 新入生オリエンテーション
12日 専任教授会
工学研究科委員会
教授会
13日 前学期授業開始
16日 事務連絡会議
18日 学科主任会議
20日 学部補導委員会
25日 工学研究科委員会
学科主任会議
27日 学部補導委員会

教 養 部

4月4日 教務補導合同委員会
教授会
教授のみの教授会
9日 教養部人事問題検討委員会
18日 補導委員会
教養部人事問題検討委員会
教養部将来計画委員会
25日 教授のみの教授会
教授会

附 属 図 書 館

4月6日 富山県図書館協会理事会（於 富山県立図書館）
10日 図書館オリエンテーション
17日 X線間接撮影
24日 事務打合せ会

経 営 短 期 大 学 部

4月10日 入学式
新入生オリエンテーション
前学期授業開始
11日 新入生歓迎会

12日 第1回教授会
定期健康診断
17日 財務委員会
23日 授業料等減免選考委員会
財務委員会
26日 第2回教授会

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 第一共同印刷株式会社
富山市太郎丸1220-2
電話 ☎ 0196(代)